

Sta★At Pitch Report

第1回大会 報告書



スタートアップ・アツギベンチャーと企業をつなぐ

スタ★アトピッチ
Japan

グランプリ

| スタートアップ |

事業に掛ける“想い”を広く社会に打ち出せた

ジョージ・アンド・ショーン株式会社 代表取締役 井上 憲氏



〈井上 憲氏〉1980年生まれ。2006年に日本オラクルに入社後、ソフトウェア製品の事業開発を担当。2016年に祖母が認知症を患ったのをきっかけに、ジョージ・アンド・ショーンを兼業事業として創業。見守り端末「bible(ビブル)」を開発し、それに続くヘルスケアAI事業の拡大に注力する。

ピッチランに臨む準備で
事業の目的や方向性が明確になる

でなくベンチャー企業の社員たちは親や親族に会社のことを説明するにも苦労があるものですが、グランプリ受賞を知らせる掲載紙を片手に会社や事業の説明ができるようになったという社員もいます。グランプリ受賞により、何より社員たちのモチベーションも大いに高まっていることを実感しています。

実証実験に協力してくれる パートナー求めて参加

「スタ★アトピッチJapan」への参加目的は、2016年より進めている事業を共に進化させるパートナーと出会うことでした。当社は詳細な位置や会話などの情報が分かる見守り端末を活用しながら軽度認知障害(MCI)を早期検知して認知症発症を遅らせることに役立つ実証実験を展開しています。データを集めるための施設などの提供先や事業化への連携パートナーを探していました。

当社のメンバーは、社会に役立つ新規事業を立ち上げたいという志で集まっているのですが、私も含め社員の多くは兼業で、一つひとつの施設に相談に行く営業力が不足しています。また、医療の専門家もいないため、MCIに効果的な食事や運動の専門知識もありません。そこでエビデンスのあるコンテンツや軽度認知障害の人々に対する具体的な策を持つ人や団体からのアプローチを求め、参加を決めました。

アツギベンチャーと対峙で 再確認した事業への想い

ブロック大会の2分間のピッチラン動

成果は知名度アップと 理念の伝播の実現

「スタ★アトピッチJapan」に参加し、「社会貢献を事業の柱にしたい」という企業理念に多くの方からご賛同いただいたことを実感しています。我々が展開

していこうとする事業そのものを広く訴求できたことも大きな成果です。日本経済新聞に決勝大会の結果が掲載された時には多くの問い合わせもいただくなど、社名や事業目的は一気に広まりました。日本経済新聞というメディアの影響力の大きさを実感しています。当社だけ



決勝大会ピッチラン(左)とブロック大会のピッチラン動画(右)。AIを用いた高齢者認知症/MCI早期検知サービスについて、その社会的意義・実証結果等について資料を交えながら紹介。グランプリを受賞した。

画では、その時間内で何を伝えるかに悩みました。事業を分かりやすく具体的に説明することはもちろん重要なのですが、私たちはそれよりも「超高齢社会の理想的な姿を求めて」という根底にあるコアメッセージが伝わることを心掛けました。動画を観ながら資料も参考にもらえるよう動画の中に見てほしい資料のナンバーを入れたり、電車の中などスマートフォンでご覧になる場合に

音声なしでも理解できるようテロップを入れたりと細部にまで気を配りました。

「スタ★アトピッチJapan」はアトツギベンチャーと競い合うというユニークな大会でしたが、その存在はかなり意識しました。ベンチャー事業での参加とはいえ彼らには歴史やコアビジネスがあり、再起をかける場合もそういったものをすべて背負って参加しているだろうと。私たちも事業に掛ける想いやビジョ

ンをしっかり打ち出していました。

志を持って事業に取り組んでいるスタートアップの皆様は、ぜひこの「スタ★アトピッチJapan」に参加してみてください。自分たちの事業の目的や方向性について見つめ直すことができます。また知名度の向上や参加者同士のつながりなど、様々なものを得られる良い機会になると思います。

準グランプリ

アトツギベンチャー

地方アトツギベンチャーがスポットライトを浴びる舞台

株式会社ミライエ代表取締役 島田 義久氏

ベンチャー企業同士が競い合うことで生まれる「勇気」

当社は独自技術を使った脱臭装置の事業が伸びています。これまでは直販を主としていましたが、販路拡大やより高性能なユニット型の装置を開発するための資金調達が課題であったため、PRの場を求めて参加を決めました。

「スタ★アトピッチJapan」に出場して気付かされたのは、アトツギであるかスタートアップであるかを問わず、資金調達や取引先の開拓といった事業推進の過程でぶつかる壁や悩みは、どのベンチャー企業でも似通っているということです。業種・業態は違って、同じ悩みを抱えているもの同士が競い合い、知り合うことで大きな刺激と勇気をもらえます。こうしたベンチャー同士のつながりを得たことは大変な財産です。

受賞により10社を超える新規商談につながりました。また、事業提携や資金調達等の面でもお話をいただいています。社員からは自社の事業に自信を持ったという言葉があがっており、商品の開

商品の開発や市場投入に向けて会社全体が勢い付いた

発や市場投入に向けて会社全体が勢い付いています。

アトツギベンチャーにフォーカスした大手メディア主催のピッチランの全国大会は他に類を見ません。地方の老舗企業がスポットライトを浴びることができる



(島田 義久氏)2000年ミライエ入社、2007年に社長就任。取得特許多数、地方発明表彰実施功績賞、ドリームゲート環境部門最優秀賞、MITベンチャーフォーラム優秀賞など受賞。

稀有な舞台です。今後、参加企業が増え、地方ベンチャー発の情報発信が進み、各地方のベンチャー企業同士が結ばれる、あるいは地方から直接世界に飛び出て発展するベンチャー企業が生まれることを期待しています。



「スタ★アトピッチJapan」とは

スタートアップや若い後継者候補による「アトツギベンチャー」による、ピッチランの全国大会です。
これからの日本経済発展のカギを握るのは、イノベーションを担うスタートアップとアトツギベンチャー。
両者が広く社会に認知され、更なる飛躍のきっかけとなる機会をご提供し、日本経済活性化につなげていきたい。
そんな思いから始まった、日本経済新聞社の大型企画です。



第1回スタ★アトピッチJapan

主催／日本経済新聞社

後援／中小企業庁、金融庁、日本商工会議所、全国銀行協会、全国地方銀行協会

協賛／ **野村証券**  **りそな銀行**  **きらぼし銀行**  **名古屋銀行**  **十六銀行**

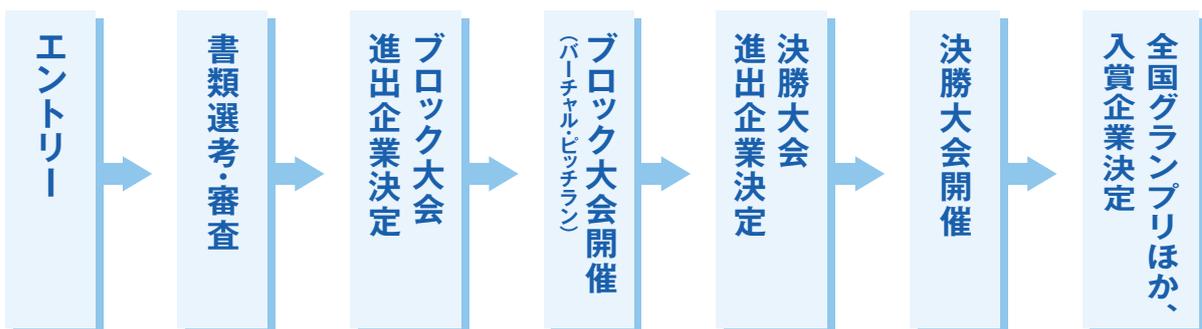
●応募資格

スタートアップ部門：創業10年程度の未上場スタートアップ企業

アトツギベンチャー部門：家業を継承し新規事業展開に挑むアトツギベンチャー企業

●開催の流れ

全国を9ブロックに分けたブロック大会を開催後、各ブロックの上位企業による決勝大会を開催しました。



決勝大会入賞企業

グランプリ

スタートアップ | ジョージ・アンド・ショーン株式会社
井上憲氏

高齢者認知症/MCI 早期検知
AIサービス



準グランプリ

アツギベンチャー |

りそな銀行賞

株式会社ミライエ
島田義久氏

世界初、消耗品ゼロの脱臭装置



スタートアップ 部門賞

スタートアップ | 株式会社STANDAGE
足立彰紀氏

暗号資産を用いた
国際貿易プラットフォーム「SHC」



アツギベンチャー部門賞

アツギベンチャー |

野村ホールディングス賞

テクノツール株式会社
島田真太郎氏

Game for ALL !!
上肢不自由者向けゲームコントローラー



オーディエンス賞

スタートアップ | あをに工房合同会社
中山久雄氏

83歳が即戦力に!
【要介護高齢者×仕事】のプラットフォームを
作って日本の介護を明るく変える



● 決勝大会審査員 ※肩書きは開催時点

永田町ファミリーオフィス代表、
NPO日本ファミリーオフィス協会代表理事
相山 豊氏

グロービス・キャピタル・パートナーズ
代表パートナー、最高執行責任者(COO)
今野 穰氏

FFGベンチャー・ビジネスパートナーズ
取締役副社長
山口 泰久氏

静岡県立大学
大学院経営情報イノベーション研究科 准教授
落合 康裕氏

名商大ビジネススクール理事長
栗本 博行氏

ベンチャー型事業承継 代表理事
山野 千枝氏

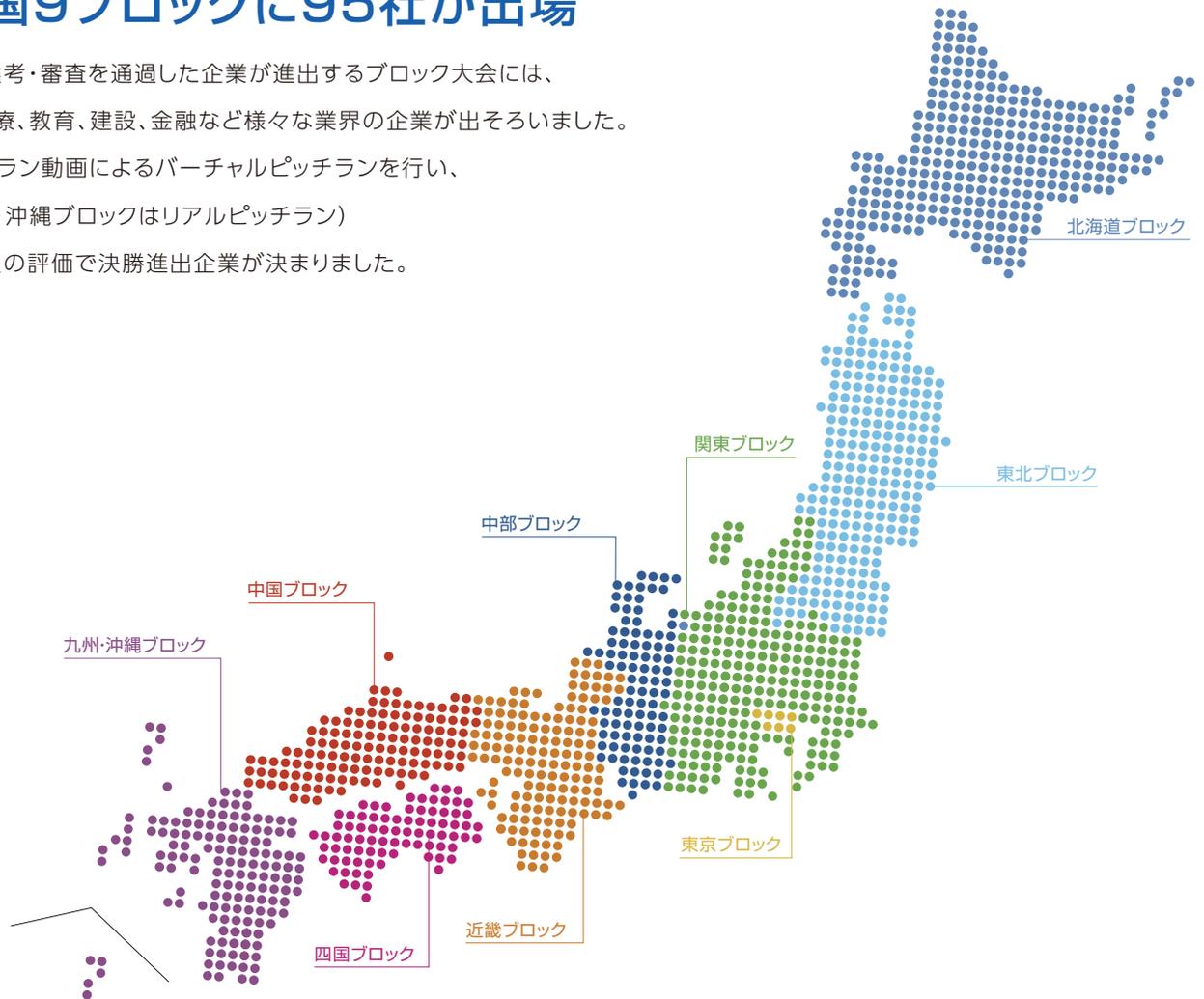
日本経済新聞社
日経産業新聞 編集長
宮東 治彦



ブロック大会

全国9ブロックに95社が出場

書類選考・審査を通過した企業が進出するブロック大会には、IT、医療、教育、建設、金融など様々な業界の企業が出そろいました。ピッチラン動画によるバーチャルピッチランを行い、(九州・沖縄ブロックはリアルピッチラン)審査員の評価で決勝進出企業が決められました。

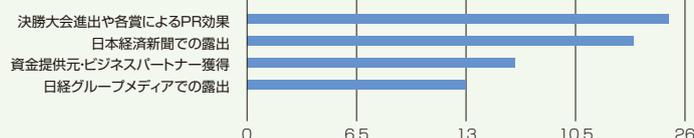


【参加企業アンケートより】

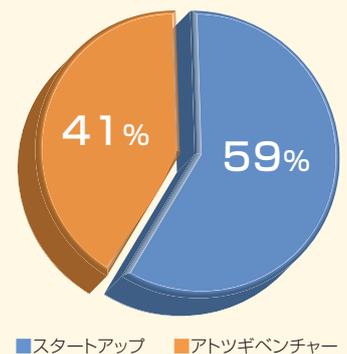
■参加理由



■参加のモチベーション・インセンティブになるもの



ブロック大会進出企業のスタートアップ / アトツギベンチャーの比率



■スタートアップ ■アトツギベンチャー

【バーチャルピッチラン】

参加企業が2分間の動画で、会社や事業にける思いを熱弁。

ピッチラン動画はスタ★アトピッチJapanのホームページで公開しました。



北海道ブロック

スタートアップ

株式会社MILE SHARE

(北海道札幌市)

飛行機のポイント・マイルを余らせている人と、飛行機に安く乗りたい人をマッチングするプラットフォーム「MILE SHARE」を展開しています。これまで繋がることのなかった需要と供給の架け橋となり、ポイントを「貯める」から「シェア」する時代へと導きます。



東京ブロック

スタートアップ

ユニロボット株式会社

(東京都渋谷区)

ロボットのハードウェア、プラットフォーム、AIを開発するベンチャー企業です。会話しながら認知を高めるAIロボット「ユニボ」は、企業の受付案内、ホテル、病院、介護施設、教育現場など活躍の場を拡大中。“人の心をひらける存在”としてさらに社会貢献します。



近畿ブロック

スタートアップ

株式会社昆虫食のEntomo

(大阪府和泉市)

昆虫食は持続可能なタンパク源として注目されていますが、見た目などから偏見を持たれがちです。私たちは食品加工技術によって、見た目・味・価格が現代に受け入れられる昆虫食を開発しています。輸入販売、産学連携開発、食育、昆虫養殖などを通し昆虫食文化を世界に広めます。



中国ブロック

アトツギベンチャー

株式会社虎屋本舗

(広島県福山市)

創業400年の和菓子屋です。福山市は瀬戸内海に面しており、島しょ部を抱える地域です。弊社では職人による出張和菓子教室、「せとうち和菓子キャラバン」を開催。事業を通じ、郷土文化の継承や瀬戸内ブランド創生のための持続可能な仕組みづくりを目指しています。



四国ブロック

スタートアップ

株式会社アドリブワークス

(愛媛県今治市)

「自由な人生をつくる会社」をコンセプトに掲げ、ITを活用した創業支援プラットフォーム「WORKATORS」を提供しています。ウェブ上で人材や事業資金を募り、マッチングした人同士で創業チームを組むことができるサービスです。日本の働き方に革新をもたらします。

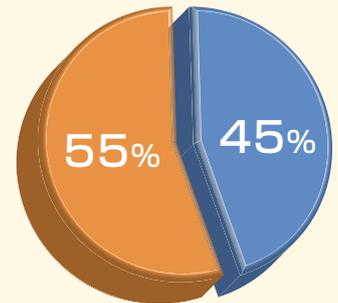
決勝大会

ブロック大会で高い評価を得た22社が決勝大会に進出。

決勝大会は東京・日経ホールにて開催、4分間のピッチランと質疑応答により、グランプリをはじめ各賞が決まりました。



決勝大会進出企業のスタートアップ / アトツギベンチャーの比率



■スタートアップ ■アトツギベンチャー

〈決勝大会進出企業コメント〉



脱炭素社会実現に貢献する もみ殻利活用プロジェクト

NSIC株式会社
代表取締役
木倉崇氏

行政とともに10年かけて手がけた事業の普及を目的として参加しました。環境問題への取り組みは様々な規制の中で進めていかななくてはならず、すぐには広がりません。地道な活動ですが、農業の未来のために私たちが先陣を切っていきます。



食卓に華やかさを添える 「エディブルフラワー」を たくさんの人へ

株式会社山イ藤商店
見習い平社員
梅木悠太氏

私の地元は北海道の小さな町です。ここから発信、挑戦してみようという気持ちで応募しました。第一線で活躍している方々と交流できたことが財産です。これから資金繰り、社内調整など様々な壁を超えて地元の名前が全国に届くよう頑張ります。



～伝統と革新～

日本の「小倉織」を世界の 「KOKURA STRIPES」へ

小倉織物製造株式会社
代表取締役
築城弥央氏

歴史の中で1度途絶えて復活した小倉織をもっと知ってもらいたい思いから参加しました。再生させた文化をつなぎ、今後50年、100年続く企業にしたいです。今回参加された起業家メンバーたちとの間で生まれた横のつながりも大事にします。



自宅を小さな縫製工場に 「My Home Atelier」

合同会社ヴァレイ
代表
谷英希氏

縫製業界を知ってもらいたい思いで参加しました。準備期間は自分の事業と向き合う時間となり楽しかったです。アトツギとスタートアップが同じ土俵で戦うことが刺激になりました。事業拡大、他企業との繋がり、海外進出など更なる飛躍を目指します。



〈決勝大会進出企業一覧〉

北海道	株式会社山ス伊藤商店	アツギベンチャー
東北	株式会社ZAICO	スタートアップ
関東	小柳建設株式会社	アツギベンチャー
	株式会社Smart119	スタートアップ
	株式会社Vook	スタートアップ
東京	ジョージ・アンド・ショーン株式会社	スタートアップ
	株式会社STANDAGE	スタートアップ
	株式会社KAWAGUCHI	アツギベンチャー
	Yper株式会社	スタートアップ
	テクノツール株式会社	アツギベンチャー
中部	株式会社エフラボ	アツギベンチャー
	NSIC株式会社	アツギベンチャー
	株式会社ビルドアップサービス	アツギベンチャー
近畿	合同会社ヴァレイ	アツギベンチャー
	あをに工房合同会社	スタートアップ
	株式会社革靴をはいた猫	スタートアップ
中国	株式会社ミライエ	アツギベンチャー
	株式会社虎屋本舗	アツギベンチャー
四国	はなはな*みかん	スタートアップ
九州・沖縄	ワアク株式会社	アツギベンチャー
	小倉織物製造株式会社	アツギベンチャー
	株式会社ベンナーズ	スタートアップ

審査員より



静岡県立大学
大学院経営情報イノベーション研究科 教授
落合 康裕氏

今大会の3つの意義と、 コロナ禍以降のベンチャー企業

スタ★アトピッチはベンチャー企業対象のイベントとして、3つの意義を持つと考えられます。すなわち、イノベーションが起きる土壌を形成するために不可欠な「企業間の競争意識の形成」、全国各地から優れた技術・アイデアを持った企業を見つけ出し資金提供元や事業提携先とマッチングさせる「将来の日本を牽引する企業の発掘と育成」、スタートアップとアトツギベンチャーそれぞれにとって目指すべき方向性を示す「ベンチマークの形成」の3つです。

ベンチャーには既存の既得権益や従前のしきたりを打ち壊すだけの勢いが必要ですが、今大会の登場企業もそれぞれが柔軟な

発想で社会課題を解決するモデルを提示されていました。個別の利益追求を超え、社会変革を担いうる可能性を秘めていると感じています。

現代は消費者や取引先・企業をとりまく環境にどのような問題解決を与えられるのかがつねに問われる時代です。コロナ禍以降は日本の経済システムも大きな転換を迫られるでしょう。しかし、疫病や自然災害などに見舞われた危機的状況の中でこそ、需要は明確な形をもって現れます。企業・顧客・社会それぞれの利益を持続的に提供できる、「三方よし」の近江商人のようなベンチャー企業が次回以降も登場することを心待ちにしています。

コロナは新時代の幕開け。 「地方だから」「斜陽だから」チャンスと捉えよ。

スタートアップに混ざり、スタ★アトピッチというステージに立ったアトツギに、まず敬意を表します。「スケールするの?」「IPOをめざせるの?」。アトツギのビジネスプランに対して、こう尋ねるスタートアップ界隈の人も多いです。しかし臆することはありません。真のイノベーションは、地域や社会に新しい価値をもたらすことです。

今回のコロナ危機で、経済活動はおろか社会機能も停止しました。一方で、新たなニーズや社会課題が噴出してあります。今後、医療・衛生分野のみならず、オンラインサービス、リモートワーク、地方回帰、資材調達のあるり方など、さまざまな領域でこれまでの「常識」や「前

提」が覆されます。唐突に新時代の幕開けが訪れたのです。

いま起きている社会課題を解決するために、いまある家業の経営資源で何ができるのか。家業で実現したい世界は何なのか。ピッチイベントに出る最大の価値はその自問自答を、言葉や計画に変えるプロセスにあります。「うちの会社はこっちに行くんだ」と世の中に約束することです。言葉にしたことしか実現できないものですし、経営者が会社の夢や未来を語らない会社には人材も集まりません。先代の時代の当たり前や前提が変わるいまこそ、アトツギの出番です。思い切った新規事業や業態転換に胸を張って挑戦してほしいと思います。



ベンチャー型事業承継 代表理事
山野 千枝氏

参加企業
募集中

参加
無料

応募締切

2020年
8月31日(月)

未来を拓くカギは挑戦の中に。
世界を変えるイノベーター、

求む!

スタートアップ・アツギベンチャーと企業をつなぐ

第2回

スタ★アトピッチ

Japan

● 募集対象

創業10年程度、未上場の
スタートアップ企業・団体の経営者

新規事業などに挑む
家業のアツギ経営者・候補者

【こんな方に】



社会に向けて
事業ビジョンを
熱く訴えたい



大企業に
事業提携を
持ち掛けたい



ビジネス
パートナーを
獲得したい



人的交流・
ネットワークを
作りたい



社内の
モチベーションを
上げたい

● 応募について

応募資料(A4相当10枚程度の事業説明資料、5MB以内のPDF形式)をご用意ください。

書類選考を通過しブロック大会に進んでいただく企業には、

9月中旬以降に説明会のご案内をいたします。

<https://staatpitch.nikkei.co.jp>



NIKKEI

スタ★アトピッチJapan 事務局

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1丁目25番JR神田万世橋ビル16階 TEL.03-6812-8652